

文教厚生常任委員会

平成19年11月13日から15日まで、佐賀県の武雄市と伊万里市で「食育と子育て支援の取り組み」について、福岡県の黒木町と星野村では「学校統廃合の実例と廃校舎の活用方策」について調査しました。

武雄市は平成18年3月に旧武雄市、山内町及び北方町が合併した佐賀県の西部に位置する人口約5万2000人の市です。合併後、当時36歳という全国一若い市長が就任し、平成19年4月、選挙公約実現に向けて大幅な行政組織再編が行われ、「食育、地産地消」及び「子どもは宝」を進めるために、「こども部」が設置され、食育課・未来課・支援課という一体的な組織体制のもとで、食育と子育て全般の業務を一本化し取り組まれていました。

また、住民との対話ができつけとなり、気軽に行って遊べる広場「キッズステーション」が庁舎

てのしやすい市を目指す」という思いが強く感じられました。

伊万里市は武雄市の北部に隣接する人口約5万8000人の市です。

「食育の取り組み」は食育基本法が制定される以前の平成17年2月に市長の提言で「食のまちづくり宣言」を、平成19年3月には「食のまちづくり推進条例」を制定し、朝ごはん運動の推進、食のまちづくり月間、食の安全安心、給食にふるさと食材伊万里の日を月2回設けるなど地産地消の推進、自発的な生産者と消費者との交流活動などに取り組み、「健康長寿

いずれにしても、「こども部」に行けば子どもに関する相談が全てできるシステム」になっている点に、武雄市の食育と子育てに対する考え「子育てに設置されていきました。その他に旧北方町の空き施設を活用して「子育て総合支援センター」を設置したとのことであります。

で元気なまちづくり」を目指しているとのことであります。

「子育て支援の取り組み」は平成16年度策定の次世代育成支援行動計画に基づき、独自の施策として、子育て支援センター、インフルエンザ予防接種助成、家庭児童相談室、乳幼児医療費助成、子ども医療費助成及び児童センターのほか、子育て応援基金を創設されるなど多くの子育て支援がなされていきました。

黒木町は福岡県南東部の中山間部に位置し人口約1万3000人の町で八女茶発祥の地として知られています。

「学校統廃合」は12校あった小学校を平成9年から順次統廃合を進め、平成20年の統廃合により小学校は5校になるとのことです。

中学校は昭和45年に4つの中学校を1校に統合されています。

「廃校舎の活用方策」は地元の要望等で校舎撤去後小さな建物を建設し



廃校後の校舎を農村体験交流施設として活用（黒木町）

地域のふれあいセンターとして活用しているところがあるほか、既存の校舎を農業体験交流施設として活用するなど、地域独自に取り組みを始めたところもありました。

星野村は黒木町の北東部に隣接する人口約3500人の村で、各種施設やイベント等を通じた都市交流により年間約40万人の観光客が訪れています。

「学校統廃合」については昭和58年に学校問題協議会が設置され検討された経緯がありますが、実質的には平成7年10月

に行革推進本部が村に設置されて以降、小学校の存続問題について協議されるようになり、平成9年3月に「学校問題検討委員会」が発足し、話し合いの結果、平成10年2月に「村内4小学校は当分の間存続させる。ただし、児童数が30人以下又は3学級編成が見込まれる年代が生じた場合は、統合を視野に入れた検討に入る。」という答申が出され、統廃合に至らなかったが、その後平成19年度には「3学級編成」が見込まれたことから平成15年から平成17年にかけて、再度具体的な話し合いが進められ、平成19年4月に4小学校を統合して新たに1校を新設されたとのことでありました。

所見

4市町村とも行政トップのリーダーシップやトップの思いが職員、地域に伝わることで、職員のやる気生まれ、行政と地域が協働して考える雰囲気が出てきていると感じました。



こども部について課長から説明を受ける委員（武雄市）